

関西支部 第500回航空宇宙懇談会

主催：日本航空宇宙学会関西支部

共催：大阪公立大学 工学部 航空宇宙工学科

日時：2026年5月15日（金）15時～17時

実施方法：大阪公立大学なかもずキャンパスB6棟105教室およびオンライン（zoom）



なかもずキャンパス
へのアクセス

現地へのアクセス：大阪公立大学 HP にてご確認ください

<https://www.omu.ac.jp/about/campus/nakamozu/>

講演1：ロバスト低ブーム超音速機設計技術実証

JAXA 航空機技術部門 Re-BooT プロジェクト
チーム
プロジェクトマネージャ

牧野 好和 氏

近年民間超音速機の開発機運が再び盛り上がりを見せています。米国スタートアップ企業であるBOOM社は、マッハ数1.7で巡航する60-80席クラスの超音速旅客機Overtureの開発を進めており、2025年1月には技術実証機XB-1での超音速飛行を達成しました。また、NASAは低ソニックブーム実証機X-59の開発を進めており、2025年10月に初飛行を行いました。こうした研究開発動向を受けて、国際民間航空機関ICAOでは将来超音速機の騒音基準の策定を進めています。

JAXAでは、超音速飛行時に発生するソニックブームを幅広い範囲で低減するロバスト低ブーム設計技術の研究開発を行うRe-BooTプロジェクトを進めています。Re-BooTプロジェクトではJSTより経済安全保障重要技術育成プログラムの資金を受け、ロバスト低ブーム設計技術の飛行実証を行う計画です。

本発表では、ソニックブーム基準策定や実機開発動向を含む超音速機に係る国際動向について紹介するとともに、JAXAが開発したロバスト低ブーム設計技術の詳細と、飛行試験に向けた技術実証機の開発状況について紹介します。

講演2：SOLAR-C望遠鏡開発の概要

三菱電機（株） 電子通信システム製作所
インフラ情報システム部 プロジェクト部長
安藤 聡祐 氏

SOLAR-C(高感度太陽紫外線分光観測衛星)ミッションは、日本主導・米欧協力による極端紫外線太陽観測衛星であり、太陽大気における高温プラズマ形成過程およびフレア発生機構の解明を目的としています。その中核となるEUV分光望遠鏡(EUVST)は、彩層(約1万度)からコロナ(約100万度)、さらにフレア(約1000万度)までの広範な温度領域を隙間なく観測できる、世界初の装置です。開口部フィルターを廃し、光学素子を主鏡と回折格子のみに限定する革新的設計により、従来比10~30倍の有効面積を実現。最高0.4秒角の空間分解能と1秒以下の時間分解能を達成します。分光観測と同時に画像取得も可能で、スリットに入射する太陽面の位置を正確に把握でき、他の衛星や地上望遠鏡との協調観測を強化できます。さらに、三軸姿勢制御と主鏡ティップティルト制御により、常に高精度で太陽を指向します。本望遠鏡は、ミッション要求が極めて高難易度であり、加えて多数のステークホルダが参画する開発体制を有することから、通常の衛星開発と比べて特筆すべき点があります。本講演ではこれらの背景を踏まえ、三菱電機が担当する構成品の開発状況と、機能・性能検証計画の概要について紹介します。

参加費：

無料（参加は学会員に限りません。周りの方や学生の皆様にもお伝え下さい。）

開催形態と登録：

参加登録は5月11日（月）までに、関西支部ホームページよりお願いします。

<https://branch.jsass.or.jp/kansai/>

問合せ先：

〒604-8511 京都府京都市中京区西ノ京桑原町1
株式会社島津製作所 航空機器事業部 技術部
2026年度日本航空宇宙学会関西支部事務局
E-mail: jsass_kansai2026@group.shimadzu.co.jp



<https://branch.jsass.or.jp/kansai/>
[関西支部ホームページへ]